

**Microsoft®
Windows Server™ 2003,
Standard x64 Edition/
Microsoft®
Windows Server™ 2003,
Enterprise x64 Edition**

インストール補足説明書
for Express5800/120Rf-1,120Rh-2

はじめに

本手順書は、Windows Server 2003 x64 Edition for Express5800/120Rf-1,120Rh-2 対応 NEC差分モジュールを使用して、「Microsoft® Windows Server™ 2003, Standard x64 Edition / Microsoft® Windows Server™ 2003, Enterprise x64 Edition 日本語版」(以降、「Windows Server 2003 x64 Editions」と呼ぶ)をインストールする方法について記述しています。

Windows Server 2003 x64 Editions をインストールする前に、必ず最後までお読みください。

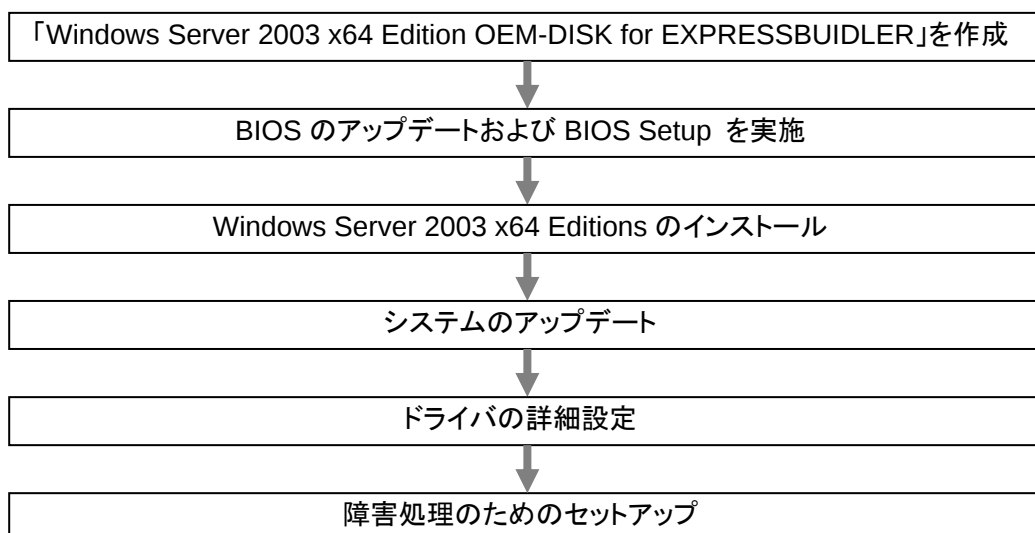
注 意

Windows Server 2003 x64 Edition for Express5800/120Rf-1,120Rh-2 対応 NEC 差分モジュールは、Express5800/120Rf-1,120Rh-2 対応 の専用モジュールです。他の装置ではご使用できません。

Windows Server 2003 x64 Editions インストール手順概略

Windows Server 2003 x64 Editions のインストール方法概略図を以下に示します。
Windows Server 2003 x64 Editions は既存の 32bit 版からのアップグレードはできません。

必ず**新規インストール**を実施してください。



Windows Server 2003 x64 Editions をインストールするための準備

■ インストールに必要なもの

Windows Server 2003 x64 Editions インストールを開始する前に、以下の媒体と手順書がそろっていることを確認してください。

- **Windows Server 2003 x64 Edition for Express5800/120Rf-1,120Rh-2 対応 NEC 差分モジュール**
(以降、「NEC 差分モジュール」と呼ぶ)

『NEC8番街』 <http://nec8.com> →

[サポート情報] → [ダウンロード(Express5800)]を参照し、入手してください。

- **Windows Server 2003 x64 Edition OEM-DISK for EXPRESSBUILDER**
(または 1.44MB フォーマットの 3.5 インチフロッピーディスク1枚)
作成方法は“「Windows Server 2003 x64 Edition OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」の作成”(本書)を参照してください。
- **Microsoft® Windows Server™ 2003, Standard x64 Edition / Microsoft® Windows Server™ 2003, Enterprise x64 Edition インストール補足説明書 for Express5800/120Rf-1,120Rh-2 (本書)**
- **Microsoft® Windows Server™ 2003, Standard x64 Edition / Microsoft® Windows Server™ 2003, Enterprise x64 Edition 日本語版 (CD-ROM) ※別途ご購入が必要です。**
(以降、「Windows Server 2003 x64 Edition CD-ROM」と呼ぶ)
または、**バックアップ CD-ROM Microsoft Windows Server 2003, Standard x64 Edition/バックアップ CD-ROM Microsoft Windows Server 2003, Enterprise x64 Edition**(以下、「バックアップ CD-ROM」と呼ぶ)
- Express5800 シリーズをお買い上げ時に添付されているもの
 - － **EXPRESSBUILDER CD-ROM**
 - － **ユーザーズガイド**
(EXPRESSBUILDER CD-ROM 中のマスターコントロールメニューから「オンラインドキュメント」を参照してください)

■ NEC 差分モジュールのダウンロードについて

「Windows Server 2003 x64 Edition OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」を作成する場合や、「システムのアップデート」を行うときは、あらかじめ以下の手順で Express5800/120Rf-1,120Rh-2 対応の NEC 差分モジュールをダウンロードしてください。

- (1) 次の URL の OS 関連のページを参照し、Express5800/120Rf-1,120Rh-2 対応の NEC 差分モジュールをダウンロードしてください。

『NEC8番街』 <http://nec8.com>

→ [サポート情報] → [ダウンロード(Express5800)]

- (2) モジュールをダウンロード後、ハードディスク上の任意のフォルダに展開する。
(例: C:\¥TEMP)

注意

ダウンロード先のフォルダには、空白文字を含むフォルダは指定できません。

■ 「Windows Server 2003 x64 Edition OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」の作成

インストールを始める前に「Windows Server 2003 x64 Edition OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」と呼ばれるフロッピーディスクが必要です。以下の手順にしたがって作成してください。

ヒント この装置用の「Windows Server 2003 x64 Edition OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」を作成済みの場合は再度、作成する必要はありません。

次の手順で作成します。

- (1) 1.44MB フォーマット済み 3.5 インチの空フロッピーディスクを1枚用意する。
- (2) オペレーティングシステムを起動する。
- (3) NEC 差分モジュールをダウンロードする。
(「NEC 差分モジュールのダウンロードについて」(本書)参照)
- (4) フロッピーディスクドライブに、フロッピーディスクをセットする。
- (5) 以下のフォルダ配下の全てのファイルをセットしたフロッピーディスクにコピーしてください。

＜展開先フォルダ名＞¥WINNT¥OEMFD¥W2K3AMD¥FD1

コピー終了後、
「Windows Server 2003 x64 Edition OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」の作成は完了です。

作成した「Windows Server 2003 x64 Edition OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」は、ライトプロテクトをし、ラベルを貼って大切に保管してください。

注意事項

Windows Server 2003 x64 Editions をインストールする前に注意事項をよく読んでください。

■ ライセンス認証の手続きについて

バックアップCD-ROMを使用する場合、ライセンス認証済みの状態でインストールされます。その他のOS CD-ROMを使用する場合、Windows Server 2003 x64 Editionsのライセンス認証の手続きが必要です。手続きを行う際に使用するプロダクトキーは、Windows Server 2003 x64 Editionsに含まれるCOAラベルに記載されたものと一致させる必要があります。

重要

- インストールしてから 30 日以内にアクティベーションを行ってください。30 日間を過ぎると、システムがロックされる場合があります。
- COA ラベルは本体に貼り付けられている場合もあります。

■ NEC差分モジュールがサポートしているオプションボード

NEC差分モジュールでサポートしているオプションボードは、以下になります。

<SCSIモデル>

- NEC差分モジュールにてOSのインストールをサポートしているボード
 - － N8103-80 ディスクアレイコントローラ(1ch)
 - － N8103-81 ディスクアレイコントローラ(2ch)
 - － SCSI HostRAID (マザーボード上のコントローラを使用)
- その他のオプション
 - － N8103-56 SCSIコントローラ
 - － N8103-75 SCSIコントローラ
 - － N8103-95 SCSIコントローラ
 - － N8190-126 SCSIコントローラ

<SATAモデル>

- NEC差分モジュールにてOSのインストールをサポートしているボード
 - － N8103-80 ディスクアレイコントローラ(1ch)
 - － N8103-81 ディスクアレイコントローラ(2ch)
 - － SATA HostRAID (マザーボード上のコントローラを使用)
- その他のオプション
 - － N8103-56 SCSIコントローラ
 - － N8103-75 SCSIコントローラ
 - － N8103-95 SCSIコントローラ
 - － N8190-126 SCSIコントローラ

■ ディスク構成について

ディスク領域に、「EISA構成」と表示された領域が存在する場合があります。構成情報やユーティリティを保存するための保守用パーティションです。削除しないでください。

■ ダイナミックディスクへの再インストールについて

ダイナミックディスクにアップグレードしたハードディスクドライブに再インストールする際、OSをインストールするパーティション以外にパーティションが存在し、そのパーティションを残したい場合は、次の点について注意してください。

- OSをインストールするパーティションには、前にOSをインストールしていたパーティションを選択してください。
- OSパーティションのフォーマットについては、「現在のファイルシステムをそのまま使用（変更なし）」を選択してください。

■ MO装置について

インストール時にMO装置を接続したままファイルシステムをNTFSに設定すると、ファイルシステムが正しく変換されない場合があります。
ファイルシステムが正しく変換されなかった場合は、MO装置を外してインストールを最初からやり直してください。

■ DAT等のメディアについて

セットアップでは、DAT等のインストールに不要なメディアはセットしないでください。

■ BIOSのアップデート

Windows Server 2003 x64 Editions をインストールするためには、EXPRESSBUILDER CD-ROMを用いて、Windows Server 2003 x64 Editions用のBIOSのアップデートが必要な場合があります。

BIOSのアップデートが必要かどうかは、『NEC8番街』<http://nec8.com> → [サポート情報] → [ダウンロード(Express5800)]を参照し、対応モジュールの有無を確認してください。

また、アップデート手順に関しては、各装置のBIOSダウンロード時の紹介文、およびダウンロードデータに含まれる「Readme.txt」を参照してください。

■ 作成するパーティションサイズについて

システムをインストールするパーティションのサイズは、次の計算式から求めることができます。

インストールに必要なサイズ + ページングファイルサイズ + ダンプファイルサイズ
+ アプリケーションサイズ

インストールに必要なサイズ	= 4100MB
ページングファイルサイズ(推奨)	= 搭載メモリサイズ × 1.5
ダンプファイルサイズ	= 搭載メモリサイズ + 1MB
アプリケーションサイズ	= 任意

重要

- 上記ページングファイルサイズはデバッグ情報(ダンプファイル)採取のための推奨サイズです。ブートボリュームには、ダンプファイルを格納するのに十分な大きさの初期サイズを持つページングファイルが必要です。また、ページングファイルが不足すると仮想メモリ不足により正確なデバッグ情報を採取できない場合があるため、システム全体で十分なページングファイルサイズを設定してください。
- 搭載メモリサイズが 2GB 以上の場合のダンプファイルサイズの最大は「2048MB+1MB」です。
- その他アプリケーションなどをインストールする場合は、別途そのアプリケーションが必要とするディスク容量を追加してください。

例えば、搭載メモリサイズが512MBの場合、パーティションサイズは、前述の計算方法から

$4100\text{MB} + (512\text{MB} \times 1.5) + 512\text{MB} + 1\text{MB} + \text{アプリケーションサイズ}$
= 5381MB + アプリケーションサイズ

となります。

システムをインストールするパーティションサイズが「インストールに必要なサイズ+ページングファイルサイズ」より小さい場合はパーティションサイズを大きくするか、ディスクを増設してください。ダンプファイルサイズを確保できない場合は、次のように複数のディスクに割り当てることで解決できます。

- (1) 「インストールに必要なサイズ+ページングファイルサイズ」を設定する。
- (2) 「障害処理のためのセットアップ」を参照して、デバッグ情報(ダンプファイルサイズ分)を別のディスクに書き込むように設定する。

ダンプファイルサイズを書き込めるスペースがディスクにない場合は「インストールに必要なサイズ + ページングファイルサイズ」でインストール後、新しいディスクを増設してください。

■ マニュアルインストールについて

インストール作業中に[ハードウェアのインストール/ソフトウェアのインストール]のポップアップが2回表示される場合がありますが、システムの動作上、問題ありません。すべて[はい]をクリックして続行してください。

以降は、メッセージに従ってインストール作業を続けてください。

■ RAIDドライブの作成

SATA HostRAIDを使用する場合は、インストール前にBIOSセットアップユーティリティにてHostRAIDをEnabledとし、RAIDドライブを作成してください。SCSI HostRAIDを使用する場合は、インストール前にSCSI Select UtilityにてHostRAIDをEnabledとし、RAIDドライブを作成してください。RAIDドライブの作成方法については、ユーザーズガイドのRAIDコンフィグレーションの項を参照してください。オプションのディスクアレイコントローラを使用している場合は、ボードに添付されているマニュアルを参照してください。

1 Windows Server 2003 x64 Editions のインストール

ここでは、**Windows Server 2003 x64 Editions** の新規インストール方法について説明します。

1. システムの電源を ON にする。

重要 Windows Server 2003 x64 Editions 用の BIOS のアップデートが必要な場合は、アップデートを行ってください。BIOS のアップデートが必要かどうかは、『NEC8番街』 <http://nec8.com> → [サポート情報] → [ダウンロード(Express5800)] を参照し、対応モジュールの有無を確認してください。

ディスプレイ装置の画面に POST (Power On Self-Test) の実行内容が表示されます。
(「NEC」ロゴが表示された場合は<Esc>キーを押してください。)
しばらくすると、次のメッセージが画面左下に表示されます。

Press <F2> to enter SETUP

2. <F2>キーを押し、BIOS Setup メニューの「Advanced」→「Installed O/S」を「PnP O/S」に設定する。設定方法は機種によって異なりますので、詳しくは装置の BIOS ダウンロードデータに含まれる「Readme.txt」を参照してください。
3. BIOS Setup メニューの「Exit」→「Save Changes & Exit」を選択し、[Yes]を選択してシステムを再起動させる。
4. Windows Server 2003 x64 Edition CD-ROM またはバックアップ CD-ROM を CD-ROM ドライブにセットしたら、リセットする(<Ctrl>+<Alt>+キーを押す)か、電源を OFF/ON して Express5800 シリーズを再起動する。

重要 ハードディスク上に起動可能な OS がインストール済みの場合は、画面上部に「Press any key to boot from CD...」が表示されている間に<Enter>キーを押してください。起動可能な OS が存在しない場合は不要です。

CD-ROM からシステムが立ち上がり、Express5800 シリーズが起動します。

Windows Server 2003 x64 Editions セットアップ画面が表示されます。画面が表示されなかった場合は、<Enter>キーが正しく押されていません。システムの電源を ON し直してから始めてください。

5. SCSI モデルをご使用の場合、ディスクアレイコントローラが取り付けられている場合もしくは本体標準装備の RAID コントローラ(SATA HostRAID/SCSI HostRAID)を使用している場合は、画面上部に「Setup is inspecting your computer's hardware configuration..」が表示されている間に<F6>キーを押す。

ヒント

- <F6>キーを押しても、このときには画面上には何の変化もあわれません。
- SATA HostRAID または SCSI HostRAID を使用している場合、事前に RAID ドライブを作成する必要があります。ユーザーズガイドの RAID コンフィグレーションの項を参照してください。
- オプションのディスクアレイコントローラを使用している場合は、ボードに添付されているマニュアルを参照してください。

<F6>キーを押す必要のない場合は、これ以降の手順は必要ありません。
画面の指示に従ってセットアップしてください。詳細については「ファーストステップガイド」を参照してください。

6. 以下のメッセージが表示されたら<S>キーを押す。

Setup could not determine the type of one or more mass storage devices installed in your system, or you have chosen to manually specify an adapter. Currently, Setup will load support for the following mass storage device(s).

以下のメッセージが表示されます。

Please insert the disk labeled
Manufacturer-supplied hardware support disk
into Drive A:
* Press ENTER when ready.

7. Windows Server 2003 x64 Edition OEM-DISK for EXPRESSBUILDER を
フロッピーディスクドライブにセットし、<Enter>キーを押す。

SCSI アダプタのリストが表示されます。

8. SCSI アダプタリストから以下のいずれを選択し、<Enter>キーを押す。

- － N8103-80 の場合
[MegaRAID SCSI 320-1 RAID Controller Driver]
- － N8103-81 の場合
[MegaRAID SCSI 320-2 RAID Controller Driver]
- － SCSI HostRAID の場合
[Adaptec HOSTRAID driver for Windows XP/2003 x64 Edition]
- － SATA HostRAID の場合
[Adaptec SATA driver for Windows XP/2003 x64 Edition]

重要 • N8103-80/N8103-81 が装備されている場合、以下のメッセージが表示されたら、<S>キーを押して先に進んでください。

The driver you provided seems to be older than the Windows default driver. Windows already has a driver that you can use for "MegaRAID SCSI 320-1 RAID Controller Driver". Unless the device manufacturer prefer that you use the driver on the floppy disk, you should use the driver in Windows.

- セットアップの途中で、Windows Server 2003 x64 Editions をインストールするパーティションサイズを設定する画面が表示されます。このとき表示される先頭にある 55MB の領域は、Express5800 シリーズ特有の構成情報や専用のユーティリティを保存するために使用されるパーティションです。この領域の削除は推奨しませんが、55MB の領域を確保させたくない場合は、「D = パーティションの削除」で削除してください。
- 100,000,000MB(100TB)以上の領域を持ったディスクに Windows Server 2003 x64 Editions をインストールする場合、デフォルト値のパーティションサイズ以外では、8 桁(99,999,999MB)以下の値しか設定できません。

ファイルのコピーの後、自動的に再起動します。

ヒント フロッピーディスクおよび CD-ROM を取り出す必要はありません。ただし、フロッピーディスクを取り出さない場合は、CD-ROM も取り出さないでください。

以降は、画面の指示に従ってセットアップしてください。
詳細については、「ファーストステップガイド」を参照してください。

ヒント SCSI アダプタリストよりドライバを選択した場合、ロゴテストに合格していない旨のポップアップが出る場合がありますが、システム上問題ありません。[OK]をクリックし処理を継続してください。

9. Windows Server 2003 x64 Editions インストール終了後、「システム管理者（例：Administrator）」の権限を持ったユーザーでログオンしてください。

10. システムのアップデートを参照して地域情報レジストリ書き込みファイルの実行とシステム
のアップデートを行う。（「2. システムのアップデート」（本書）を参照）

11. ドライバのインストールと詳細設定を参照してドライバのインストールと詳細設定をする。
（「3. ドライバのインストールと詳細設定」（本書）を参照）

2 システムのアップデート

Windows Server 2003 x64 Editions のインストール後、必ず以下の手順で地域情報レジストリ書き込みファイル(JAPAN.REG)の実行と、システムのアップデートを行ってください。

NEC 差分モジュールをダウンロードしていない場合は、「Windows Server 2003 x64 Editions をインストールするための準備」の「NEC 差分モジュールのダウンロード」を参照し、ダウンロードしてください。

重要 次の場合も必ずシステムのアップデートをしてください。

- システム構成を変更した場合(内蔵オプションの機器の取り付け/取り外しをした場合。システム構成を変更した後、再起動を促すダイアログボックスが表示される場合は[いいえ]をクリックし、システムをアップデートしてください。)
- 修復プロセスを使用してシステムを修復した場合
- バックアップ媒体からシステムをリストアした場合

1. 管理者権限のあるアカウント(administrator 等)で、システムにログオンする。
2. JAPAN.REG を実行する。

書き込み確認のメッセージが表示されるので[はい]を選択する。

3. <展開先フォルダ名>¥WINNT¥W2K3AMD¥UPDATE.VBS を実行する。
セットアップメッセージが表示されます。

画面のメッセージにしたがって作業を進めると、[コンピュータの再起動] ダイアログボックスが表示されます。

4. [コンピュータの再起動]をクリックしてシステムを再起動させる。

3 ドライバのインストールと詳細設定

本装置標準装備の各種ドライバのインストールとセットアップを行います。
ここで記載されていないドライバのインストールやセットアップについてはドライバに添付の説明書を参照してください。

■ PROSet

PROSetは、ネットワークドライバに含まれるネットワーク機能確認ユーティリティです。
PROSetを使用することにより、以下のことが行えます。

- － アダプタ詳細情報の確認
- － ループバックテスト、パケット送信テストなどの診断
- － Teamingの設定

ネットワークアダプタ複数枚をチームとして構成することで、システムに耐障害性に優れた環境を提供し、装置とスイッチ間のスループットを向上させることができます。
このような機能を利用する場合は、PROSetが必要になります。PROSetをインストールする場合は、以下の手順に従ってください。

1. エクスプローラを起動する。

[標準のスタートメニューモードの手順]

スタートメニューから[エクスプローラ]をクリックする。

[クラシックスタートメニューモードの手順]

スタートメニューから[プログラム]、[アクセサリ]の順にポイントし、
[エクスプローラ]をクリックする。

2. 「<展開先フォルダ名>:\WINNT\W2K3AMD\NS1\PROSET\WS03_32E」ディレクトリ内の「DXSETUP.EXE」アイコンをダブルクリックする。

[Intel(R) PROSet – Installshield ウィザード]が起動します。

3. [次へ]をクリックする。
4. [同意する]をクリックする。
5. デフォルトのままで、[次へ]をクリックする。
6. [インストール]をクリックする。
[InstallShield ウィザードを完了しました]ウィンドウが表示されます。
7. [完了]をクリックする。
8. システムを再起動させる。

以上で完了です。

■ ネットワークドライバをインストールする前に

ネットワークドライバをインストールする前に、Windows Server 2003 x64 Editions の修正モジュールを適用する必要があります。この修正モジュールを適用せずにネットワークドライバを起動させると、イベントログの参照ができなくなることがあります。

発生条件 : Gigabit Ethernet Controllerを10Mbpsの回線速度で接続したとき

対象装置 : Express5800/120Rf-1, 120Rh-2 標準搭載 Gigabit Ethernet
および オプションボードのGigabit Ethernet ボード

修正モジュールの入手は、弊社ファーストコンタクトセンターまでご連絡ください。

ファーストコンタクトセンター : TEL 03-3455-5800

受付時間 9:00~12:00, 13:00~17:00 月曜日~金曜日(祝日を除く)

■ ネットワークドライバ

標準装備のネットワークアダプタは、システムのアップデート時に自動的にインストールされますが、転送速度とDuplexモードの設定が必要です。以下の手順に従って設定してください。

ヒント

サービスの追加で、[ネットワークモニタ]を追加することをお勧めします。[ネットワークモニタ]は、[ネットワークモニタ]をインストールしたコンピュータが送受信するフレーム(またはパケット)を監視することができます。ネットワーク障害の解析などに有効なツールです。インストールの手順は、ユーザーズガイドを参照してください。

必要に応じてプロトコルやサービスの追加/削除をしてください。[ネットワーク接続]から[ローカルエリア接続のプロパティ]ダイアログボックスを表示させて行います。

<PROSetがインストールされていない場合>

1. [ローカルエリア接続のプロパティ]ダイアログボックスを開く。

[標準のスタートメニューモードの手順]

- (1) スタートメニューから[コントロール パネル]→[ネットワーク接続] →[ローカルエリア接続](Intel(R) PRO/1000 MT Dual Port Network Connection)または (Intel(R) PRO/1000 MT Dual Port Network Connection #2)をクリックする。

[ローカル エリア接続の状態]ダイアログボックスが表示されます。

- (2) [プロパティ]をクリックする。

[クラシックスタートメニューモードの手順]

- (1) スタートメニューから[設定]→[ネットワーク接続]をクリックする。
- (2) [ローカルエリア接続]アイコン(Intel(R) PRO/1000 MT Dual Port Network Connection)または(Intel(R) PRO/1000 MT Dual Port Network Connection #2)を右クリックし、ショートカットメニューから[プロパティ]をクリックする。

2. [構成]をクリックする。

[ネットワークアダプタのプロパティ]ダイアログボックスが表示されます。

3. [詳細設定]タブをクリックし、[リンク速度とデュプレックス]をハブの設定値と同じ値に設定する。
4. [ネットワークアダプタのプロパティ]ダイアログボックスの[OK]をクリックする。

以上で完了です。

<PROSetがインストールされている場合>

1. 「ローカル エリア接続のプロパティ」ダイアログボックスを開く。

[標準のスタートメニューモードの手順]

- (1) スタートメニューから[コントロールパネル]→[ネットワーク接続] → [ローカルエリア接続](Intel(R) PRO/1000 MT Dual Port Network Connection)または (Intel(R) PRO/1000 MT Dual Port Network Connection #2)をクリックする。

[ローカル エリア接続の状態]ダイアログボックスが表示されます。

- (2) [プロパティ]をクリックする。

[クラシックスタートメニューモードの手順]

- (1) スタートメニューから[設定]→[ネットワーク接続]をクリックする。

- (2) [ローカルエリア接続]アイコン(Intel(R) PRO/1000 MT Dual Port Network Connection)または(Intel(R) PRO/1000 MT Dual Port Network Connection #2)を右クリックし、ショートカットメニューから[プロパティ]をクリックする。

2. [構成]をクリックする。

[Intel PROSet]ダイアログボックスが表示されます。

3. [リンク]タブをクリックし、[リンク速度とデュプレックス]をハブの設定値と同じ値に設定する。
4. [Intel PROSet]ダイアログボックスの[OK]をクリックする。

以上で完了です。

<再インストール>

ネットワークドライバは、自動的にインストールされます。手動でのインストールを行う必要はありません。

■ オプションのネットワークのドライバ

オプションのネットワークボード(N8104-112/109/104/115/88/111/86/103/113) を使用する場合について説明します。

「N8104-112/109/104/115/88/111/86/103/113」を使用する場合は、下記の手順を参考の上、**NEC差分モジュール**に格納されているドライバをインストールしてください。

「N8104-111/86/88」の場合

「<展開先フォルダ名>:¥WINNT¥W2K3AMD¥NS1¥PRO100¥WS03_32E」

「N8104-112/109/104/115/103/113」の場合

「<展開先フォルダ名>:¥WINNT¥W2K3AMD¥NS1¥PRO1000¥WS03_32E」

<オプションボード用ネットワークドライバのインストール>

1. デバイスマネージャを起動する。
2. [ネットワークアダプタ]→[Intel(R) PRO/1000~]または[Intel(R) PRO/100~] をダブルクリックする。
[Intel(R) PRO/1000~]または[Intel(R) PRO/100~]ダイアログボックスが表示されます。

ヒント

- [?その他のデバイス] → [?イーサネットコントローラ] がある場合は [?イーサネットコントローラ] をダブルクリックしてください。
- 「Intel(R) PRO/1000 MT Dual Port Network Connection」はオンボードになります。これ以外のネットワークアダプタ名がオプションボードになります。

3. [ドライバ]タブを選択し、[ドライバの更新]をクリックする。
[ハードウェアの更新ウィザード]が表示されます。
4. [一覧または特定の場所からインストールする(詳細)]を選択し、[次へ]をクリックする。
5. [次の場所で最適のドライバを検索する]を選択し、[次の場所を含める]にチェックを入れ、

「8104-111/86/88」の場合

「<展開先フォルダ名>:¥WINNT¥W2K3AMD¥NS1¥PRO100¥WS03_32E」

「N8104-112/109/104/115/103/113」の場合

「<展開先フォルダ名>:¥WINNT¥W2K3AMD¥NS1¥PRO1000¥WS03_32E」

と入力し、[次へ]をクリックする。

ドライバの検索が開始され、検索後にインストールが始まります。

しばらくすると[ハードウェアの更新ウィザードの完了]画面が表示されます。

6. [完了]をクリックする。

以上で完了です。

■ グラフィックスアクセラレータドライバ

標準装備のグラフィックスアクセラレータドライバは、システムのアップデート時に自動的にインストールされます。

1. スタートメニューから[プログラム]、[アクセサリ]の順でポイントし、[エクスプローラ]をクリックする。
2. 「<展開先フォルダ名>:\WINNT\W2K3AMD\VIDEO」ディレクトリ内の[SETUP.EXE]アイコンをダブルクリックする。

重要 Windows Server 2003 x64 Editions 向けグラフィックスアクセラレータドライバでは、N8115-02 アドバンスドリモートマネージメントカードを装着してのリモート KVM コンソールの利用を標準でサポートされています。専用ドライバをインストールする必要はありません。

3. メッセージに従って、作業を進める。
ドライバのインストールが開始されます。

重要 途中、「デジタル署名が見つかりませんでした。...」とのメッセージが表示される場合は、[はい]をクリックしインストールを続けてください。

4. 画面の指示に従ってシステムを再起動する。

■ SCSIコントローラ(N8103-56/75/95/ N8190-126)を追加接続する場合

システムにSCSIコントローラ(N8103-56/75/95/N8190-126)を追加接続する場合、OSのプラグアンドプレイ機能が動作し、ドライバが自動でインストールされます。特に作業は必要ありません。

■ ディスクアレイコントローラ(N8103-80/81)を追加接続する場合

システムにディスクアレイコントローラ(N8103-80/81)を追加接続する場合、OSのプラグアンドプレイ機能が動作しますが、ドライバは自動でインストールされません。
以下の手順でドライバをインストールしてください。

1. [スタートメニュー]—[コントロールパネル]—[管理ツール]—[コンピュータの管理]から[デバイスマネージャ]を起動する。
2. デバイスマネージャで不明なデバイスとして登録されているRAIDコントローラをダブルクリックする。
3. [ドライバの更新]をクリックする。
4. ハードウェアの更新ウィザードが表示されるので、「一覧または特定の場所からインストールする(詳細)」を選択し、[次へ]をクリックする。
5. 「次の場所で最適のドライバを検索する」を選択し、[リムーバブルメディア(フロッピー、CD-ROMなど)を検索]チェックボックスをチェックする。

6. フロッピーディスクドライブに「Windows Server 2003 x64 Edition OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」をセットして、[次へ]をクリックする。
7. [完了]をクリックする。

以上でドライバのインストールは完了です。
画面の指示に従ってシステムを再起動してください。

障害処理のためのセットアップ

障害が起きたとき、より早く、確実に障害から復旧できるように、あらかじめ次のようなセットアップをしておいてください。

■ メモリダンプ(デバッグ情報)の設定

本体内のメモリダンプ(デバッグ情報)を採取するための設定です。

重要

- メモリダンプの採取は保守サービス会社の保守員が行います。お客様はメモリダンプの設定のみを行ってください。
- ここで示す設定後、障害が発生し、メモリダンプを保存するために再起動すると、起動時に仮想メモリが不足していることを示すメッセージが表示される場合がありますが、そのまま起動してください。起動し直すと、メモリダンプを正しく保存できない場合があります。

次の手順に従って設定します。

1. スタートメニューから[コントロールパネル]を選択し、[システム]をクリックする。
[システムのプロパティ]ダイアログボックスが表示されます。
2. [詳細設定]タブをクリックする。
3. [起動と回復]ボックスの[設定]をクリックする。
4. テキストボックスにデバッグ情報を書き込む場所を入力し、[OK]をクリックする。

＜Dドライブに「MEMORY.DMP」というファイル名で書き込む場合＞
D:¥MEMORY.DMP

ヒント

Windows Server 2003 x64 Editions の場合

- デバッグ情報の書き込みは[完全メモリダンプ]を指定することを推奨します。ただし、搭載メモリサイズが 2GB を超える場合は、[完全メモリダンプ]を指定することはできません(メニューに表示されません)。その場合は、[カーネルメモリダンプ]を指定してください。
- 本装置に搭載しているメモリサイズ+1MB 以上(メモリサイズが 2GB を超える場合は、2048MB+1MB 以上)の空き容量のあるドライブを指定してください。
- メモリ増設により搭載メモリサイズが2GBを超える場合は、メモリ増設前にデバッグ情報の書き込みを[カーネルメモリダンプ]に変更してください。また、メモリ増設により採取されるデバッグ情報(メモリダンプ)のサイズが変わります。デバッグ情報(メモリダンプ)の書き込み先ドライブの空き容量を確認してください。

5. [パフォーマンス]ボックスの[設定]をクリックする。
[パフォーマンスオプション]ウィンドウが表示されます。
6. [パフォーマンスオプション]ウィンドウの[詳細設定]タブをクリックする。
7. [仮想メモリ]ボックスの[変更]をクリックする。

8. [選択したドライブのページングファイルサイズ]ボックスの[初期サイズ]を[推奨]値以上に変更し、[設定]をクリックする。

重要

- 上記ページングファイルサイズはデバッグ情報(ダンプファイル)採取のための推奨サイズです。ブートボリュームには、ダンプファイルを格納するのに十分な大きさの初期サイズを持つページングファイルが必要です。また、ページングファイルが不足すると仮想メモリ不足により正確なデバッグ情報を採取できない場合があるため、システム全体で十分なページングファイルサイズを設定してください。
- 「推奨」値については、「作成するパーティションサイズについて(本書)」を参照してください。
- メモリを増設した際は、メモリサイズに合わせてページングファイルを再設定してください。
- 障害発生時に備えて、事前にダンプスイッチを押して、正常にダンプが採取できることの確認を行うことをお勧めします。

9. [OK]をクリックする。

設定の変更内容によってはシステムを再起動するようメッセージが表示されます。メッセージに従って再起動してください。

■ ワトソン博士の設定

ワトソン博士はアプリケーションエラー用のデバグガです。アプリケーションエラーを検出するとシステムを診断し、診断情報(ログ)を記録します。診断情報を採取できるよう次の手順に従って設定してください。

1. スタートメニューの[ファイル名を指定して実行]をクリックする。
2. [名前]ボックスに「drwtsn32.exe」と入力し、[OK]をクリックする。
[Windows ワトソン博士]ダイアログボックスが表示されます。
3. [ログファイルパス]ボックスに診断情報の保存先を指定する。
「DRWTSN32.LOG」というファイル名で保存されます。

チェック

ネットワークパスは指定できません。ローカルコンピュータ上のパスを指定してください。

4. [クラッシュダンプ]ボックスにクラッシュダンプファイルの保存先を指定する。

ヒント

「クラッシュダンプファイル」は Windows Debugger で読むことができるバイナリファイルです。

5. [オプション]ボックスにある次のチェックボックスをオンにする。
 - ダンプシンボルテーブル
 - すべてのスレッドコンテキストをダンプ
 - 既存のログファイルに追加
 - クラッシュダンプファイルの作成

それぞれの機能の説明についてはオンラインヘルプを参照してください。

6. [OK]をクリックする。

トラブルシューティング

Express5800 シリーズが思うように動作しない場合は修理に出す前に次のチェックリストの内容にしたがって Express5800 シリーズをチェックしてください。

リストにある症状に当てはまる項目があるときは、その後の確認、処理にしたがってください。それでも正常に動作しない場合は、ディスプレイ装置の画面に表示されたメッセージを記録してから、保守サービス会社に連絡してください。

なお、ここに上げている症状は Windows Server 2003 x64 Editions にて新たに発生するトラブルシューティングです。その他の症状につきましては、お手持ちのユーザズガイドを参照してください。



Windows Server 2003 x64 Editions のインストールを行うと、以下のようなイベントログが登録される場合がある

ソース : LoadPerf
種類 : エラー
イベント ID : 3009

説明 : サービス C:\WINDOWS\system32\ipsecprf.ini (C:\WINDOWS\system32\ipsecprf.ini) のパフォーマンスカウンタの文字列をインストールできませんでした。
エラー コードはデータ セクションの最初の DWORD です。

→ システム運用上、問題ありません。



Windows Server 2003 x64 Editions のインストールを行うと、以下のようなイベントログが登録される場合がある

ソース : DCOM
種類 : エラー
イベント ID : 10016

説明 : コンピュータ既定 権限の設定では、CLSID {555F3418-D99E-4E51-800A-6E89CFD8B1D7} をもつ COM サーバーアプリケーションに対するローカル アクティブ化アクセス許可をユーザー NT AUTHORITY\LOCAL SERVICE SID (S-1-5-19) に与えることはできません。このセキュリティのアクセス許可は、コンポーネント サービス管理ツールを使って変更できます。

→ システム運用上、問題ありません。



Windows Server 2003 x64 Editions のインストールを行うと、以下のようなイベントログが登録される場合がある

ソース : WinMgmt
種類 : 警告
イベント ID : 5603

説明 : プロバイダ Rsop Planning Mode Provider は WMI 名前空間 root¥RSOP に登録されましたが、HostingModel プロパティが指定されませんでした。このプロバイダは LocalSystem アカウントで実行されます。このアカウントには特権があり、プロバイダがユーザー要求を正しく偽装しない場合はセキュリティ違反が起こる可能性があります。プロバイダのセキュリティの動作を確認し、プロバイダ登録の HostingModel プロパティを、必要な機能が実行可能な最小限の権限を持つアカウントに更新してください。

→ システム運用上、問題ありません。



Windows Server 2003 x64 Editions のインストールを行うと、以下のようなイベントログが登録される場合がある

ソース : WinMgmt
種類 : 警告
イベント ID : 63

説明 : プロバイダ HiPerfCooker_v1 は LocalSystem アカウントを使うために WMI 名前空間 Root¥WMI に登録されました。このアカウントには特権があり、プロバイダがユーザー要求を正しく偽装しない場合はセキュリティ違反が起こる可能性があります。
: プロバイダ WMIProv は LocalSystem アカウントを使うために WMI 名前空間 Root¥WMI に登録されました。このアカウントには特権があり、プロバイダがユーザー要求を正しく偽装しない場合はセキュリティ違反が起こる可能性があります。

→ システム運用上、問題ありません。